

3 飛行場及び航空保安施設等

自衛隊が設置する飛行場及び航空保安施設等については、航空法に準拠して、設置及び管理に関する基準を訓令で定めている。

また、小松飛行場及び浜松飛行場のレーダー管制装置の換装並びに築城飛行場の同装置の増設等安全上の措置を進めている。

4 飛行点検の実施

飛行の安全を維持し、効率的な航空交通管制を行うためには、航空保安無線施設等が航空交通の実

情に適合し、かつ、常に正しく機能していることが必要である。このため、自衛隊が設置及び管理している航空保安無線施設等については、飛行点検機を使用し実際の飛行状態に即した機能状態の点検を行い、その結果を評価及び判定している。

5 救助救難体制

航空機の搜索救難のために、主要飛行場に救難搜索機（U-125A）、救難ヘリコプター（V-107A、UH-60J）及び救難飛行艇（US-1A、US-2）等を配備している。

第7節 研究開発及び調査研究の充実

1 航空交通の安全に関する研究開発の推進

文部科学省関係の研究

独立行政法人宇宙航空研究開発機構では、航空機の運航安全に関する研究として、「安全性・利便性を向上させる次世代運航システムの研究開発」、「客室内事故防止のための乱気流検知技術の研究開発」、「ヒューマンエラー防止のための運航乗務員訓練技術の研究開発」等、また、「複合材の検査・修復技術に関する調査」等を推進した。

さらに、国土交通省運輸安全委員会からの依頼に基づき、調査研究を行い、航空事故等の事故原因の究明に協力した。

国土交通省関係の研究

ア 国土技術政策総合研究所の研究

航空機の離着陸時の安全性向上等を目的として、滑走路等空港土木施設の設計・施工・維持補修に関する研究及びストックマネジメント手法の確立に向けた研究を行った。

イ 気象庁気象研究所等の研究

気象情報等の精度向上を図り、航空交通の安全に寄与するため、気象庁気象研究所を中心に気象に関する基礎的及び応用的研究を行っている。主な研究は、以下のとおりである。

ア 台風強度推定手法とその外的要因の評価に関する研究

台風に関する進路予測の改善及び台風強度の精度向上のため、台風強度推定手法の高度化及び最適観測法の検討、日本付近に接近した台風の強雨・強風構造の実態解明等に関する研究を行った。

イ シビア現象の危険度診断技術に関する研究

極めて局地的な豪雨、ダウンバースト、竜巻、落雷などに代表される激しい現象が発生・発達する危険度診断技術の開発に関する研究を行った。

ウ 非静力学モデルによるメソ現象の予測と解明に関する研究

局地的豪雨等をより精度良く予測するため、非静力学モデルの高分解能化及びそれを用いた同化実験の改善、地形の影響による集中豪雨の再現実験等に関する研究を行った。

ウ 独立行政法人交通安全環境研究所の研究

航空機の地上走行中の安全性を向上させるため、灯火システムによる滑走路等の誤進入防止対策を強化するための研究等を行った。

エ 独立行政法人電子航法研究所の研究

航空交通の安全の確保とその円滑化を図るため、「空域の有効利用及び航空路の容量拡大」、「混雑空

航空保安無線施設等

電波又は灯火により航空機の航行を援助するための施設

港の容量拡大」及び「予防安全技術・新技術による安全性・効率性向上」に関する研究開発を実施した。

### 2 航空事故等の原因究明のための総合的な調査研究の推進

航空事故及び航空事故の兆候（重大インシデント）の原因究明を迅速かつ的確に行うため、操縦室用音声記録装置（CVR）及び飛行記録装置（DFDR）

の記録から信頼性の高い事故データ解析を実施するための総合的な調査研究を推進している。

また、航空事故及び航空事故の兆候（重大インシデント）の的確な原因究明のため、必要があると認めるときは各種装置について詳細な分析を行うほか、過去に公表した事故等調査報告書のデータベース化を行っている。